

武庫川水系河川整備計画 進行管理報告書(案)[平成 25 年度版]に係る各委員の意見書

委員名 大北慶隆

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
3	期別計画(P) 護岸整備等による 溢水対策	武田尾地区においては戦後最大洪水(Q=2,600m ³ /s)を目標に整備が進んでいるものの、今年の台風18号では道場地区でも避難指示が発令されるなど、異常気象による台風の大型化、集中豪雨の増加などによる洪水被害が懸念される。武庫川流域において、例えば100mm/h以上の降雨が発生した場合でも戦後最大洪水で大丈夫なのか。
15	期別計画(P) 天然アユが遡上 する川づくり	今まで魚道がありながら、アユやウナギが上がっていなかったのではないかと。この間、見学させていただいた魚道には改良の必要があると思います。また、実効的なカワウ対策も必要と思います。幅広いご検討をお願いします。

委員名 北添慎吾

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
1	期別計画(P) 床止工の撤去又は 改築	効率的な河川管理を行う為に床止めの必要性を感じますが、「本当に必要なのか」疑問を持っています。(改築予定の)床止めがなぜ必要なのかを科学的・工学的に簡単に説明できないのでしょうか？もし説明してある資料があれば教えて頂けないでしょうか？

委員名 室屋俊一

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
1	実績(D) 河道対策 (下流部築堤区間)	武庫川の川づくりにおいて、自然環境の保全や創出、動植物への配慮は必要と考えられるが、下流部沿川の住民にとっては、命と財産をまもるために治水安全度の向上を図る河道整備を早期かつ重点的に推進して欲しい。

委員名 竹林洋史

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
22	期別計画(P) フォローアップ 委員会の開催	委員会開催が何故10月となるのか？ 次年度施策に活かすならばもっと早く開催すべき
全般	進行管理報告書(案)	現行の進行管理報告書において、H24年度末時点で進捗率が記載されていない事業は、予定どおり進んでいるのか否か判断できない。

委員名 田尻 和行

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
6	実績(D) H24<浸透対策> 尼崎市武庫元町	ドレーン工法の施工区間(武庫元町)において、ドレーン設置箇所にあった樹木が伐採された影響で、ホタルが出なかったと地元からの意見がありました。河川対策(整備)による生態環境の変化については、フォローアップ等はされるのでしょうか。

管理番号 (1~22)	項目 (期別計画P、実績D、 点検評価C、改善A)	意見の内容
全般 (9,10)	全般	<p>総合治水対策は様々な利害関係者が複雑にからみあう玉石混合施策なので、進みやすい施策と進みにくい施策からなる。事業実施にあたって、なんでもかんでも高い効率を求められては本来の河川管理がおろそかになる。施策によっては、1年では進捗を確認できないものもあるが、県などが努力を怠っていないことを明快に示すために、進捗が見えにくい施策については「その理由」や「何が課題であるのか」を明示すべきである。やった成果だけを記載していると、進まない施策についてはやる気がないのかと誤解される恐れがある。</p> <p>流域対策の30m³/sを確保するための整備については、手を打てるところから始めているために、ある時期から急減速する可能性が高く、そのことを県民に理解頂く必要がある。</p>
8	期別計画(P) (2)洪水調節施設の整備 洪水調節施設の継続検討	<p>千苅ダム治水活用の検討が進めば、技術的可能性に加えて財源上の可能性を検討する段階に至る。技術的可能性の検討においては水量だけではなく、「水質の問題」を避けて通ることはできない。</p> <p>もし、利水容量の治水活用が現実化した場合、県民がダムの再開発の事業規模を十分に認識し、次世代への財政負担をないがしろにしないよう、行政は県民に説明する義務がある。また、千苅貯水池の水質構造を全ての県民が正しく理解しているとは思えない。財源、水質など、未検討課題を明示する必要がある。</p> <p>治水面では人命を救うことを最優先しており、水道水質が人の健康と寿命を支配していることを考慮し、治水安全度の確保と人体への影響面の整合を図る必要がある。</p>
9	期別計画(P) 流域対策	<p>流域対策による30m³/sの流量カットも公共事業であるため、事業の妥当性はB/Cで判断すべきである。しかし、校庭貯留の場合、B/C 1ではないかと懸念する。一方、総合治水なので合わせ技で評価すべきという意見もあり得る。その場合には、公共事業評価のB/Cの原則の対象外としなければならない。30m³/s流量カットは、B/Cで評価する公共事業の例外と考えるべきなのか、やはり事業効率を考えるべきなのか考え方を整理する必要がある。</p>
10	期別計画(P) 減災対策	<p>点検票に記載の人的被害の回避・軽減は洪水に伴う「外水」に対する施策と思われるが、ここでは内水と外水の対策を特に区別せずに記載している。河川管理者は混同していないが、県民は混同し、「内水が来た 逃げよ(本来は「上層避難」)」、「外水の恐れがある 上層避難(本来は「逃げよ」)」など人命を脅かすミスリードになる可能性がある。可能ならば内水と外水の対策をある程度区別・整理して表記してはどうか。</p> <p>回転灯、サイレンなどはダム下流や、洪水到達時間の短い流域部の施策と思われるが、武庫川ではどこがそれに相当するのか?もし、洪水到達時間が1時間以上の地点でもそのような対策をとっていたとすれば、オオカミ少年症候群、ミスリードを招く。</p>
16	期別計画(P) 良好な景観の保全・創出	<p>点検指標として「治水上支障がない範囲での・・・緑化・修景」武庫川のような扇状地河川は本来、砂礫で覆われた緑のない状態が原自然である。外来種が繁茂している河川敷を見ていると、治水上だけではなく、環境上支障があるという視点で、外来種の駆除を進める必要がある。この点検指標は見直してはどうか。</p>